



年度後半の避難訓練や、次年度の防災マニュアル見直しに向けて

「学校防災アドバイザー」を活用してみませんか？

今年度から県教育委員会が実施している「学校防災アドバイザー」の派遣について、7月末まで県内の学校等に11回の派遣を行いました。各学校が抱える課題について、専門的知見を持つ学校防災アドバイザーからの助言は、大変参考になるとの意見をいただいております。

今年度も後半に差し掛かり、各学校では秋の避難訓練の計画や、次年度の防災マニュアル等の見直しに向けた準備を始める頃と思います。また、昨今の大雨による被害が激甚化している現状を踏まえ、洪水や土砂災害の防災体制についての強化も求められています。

子供たちの命を守る学校防災体制の充実に向け、ぜひ、「学校防災アドバイザー」を活用ください。「学校防災アドバイザー」派遣費用はかかりません。

「学校防災アドバイザー」派遣申込みに係るホームページはこちらから→



【学校防災アドバイザー派遣事例紹介】

地域の災害特性を踏まえた災害発生時の避難場所の検討について

派遣先 石巻市立大谷地小学校

学校防災アドバイザー 東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏

【学校の主な災害特性等】

- 北上川に挟まれた地区である大谷地小学校、学校及び周辺の洪水による浸水深は3～5mが想定
- 学校は標高1～2m。2階建て校舎で屋上なし。学校は洪水での市の緊急避難場所とはなっていない。

【助言を求めた内容】

- 北上川に挟まれた地区である大谷地小学校区内を、「学校防災アドバイザー」と共に視察し、地域の災害特性から、避難場所として定めている高台への避難や、登下校時の大規模地震が発生した際の避難場所が適切であるか、専門的な立場から助言を求めた。

【学校防災アドバイザーからの主な助言（現地視察を通して）】

- 高台の避難場所として、標高と学校からの距離等を考えると沢田山は有力な候補と判断できる。保護者や地域住民へ学校として、どのタイミングで、どこにどうやって避難するか等の避難計画を周知し、合意形成を得た上で、避難場所とすることが望ましい。
- 高台の避難場所への避難を想定した場合に、鍵の所在や備蓄品の確認が必要であり、場合によっては、周辺の家庭の協力を得られるように話し合っておくことも必要ではないか。
- 登下校時に災害発生した場合に備え、身の安全を確保できる資源（安全な建物等）への避難行動等がとれるよう指導しておくことも必要ではないか。

【助言を生かして行った取組等】

- 避難場所の鍵や備蓄品の確認を行政区長や地域住民、総合支所と共有した。
- 中学校区で作成した災害時対応マニュアルを再度確認し、児童とも、災害発生時の対応を確認した。
- 洪水の避難確保計画作成及び、避難確保計画に基づく実効性のある訓練の実施に生かしたい。



学校防災アドバイザーとの現地視察

※裏面に、上記以外の、「学校防災アドバイザー」派遣による助言状況を記載していますので御参考に。

これまでの「学校防災アドバイザー」派遣による助言状況（令和3年7月末現在）

校種 (派遣回数)	相談内容	主な助言内容	助言を生かした学校の取組	学校防災 アドバイザー
高校 (6回)	実効性のある避難訓練の実施及び、災害時の教職員の役割等について	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を使った訓練の実施、授業時間以外での実施による効果 校地内の危険箇所や避難経路として不適切な場所 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を用いて昼休みの災害発生を想定した訓練 教職員の役割分担の見直し等の緊急時に対応できる体制、災害時の指示・伝達システムの整備 	東北大学災害科学国際研究所教授
	地域連携及び、水害等発生に備えた避難所開設への協力等について	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を地区長に見ていただく 地域とのつながりを構築するために日頃からの広報活動が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域学校安全委員会実施のための準備委員会の開催 避難訓練を地区長に案内 学校防災アドバイザーによる生徒・職員に対する講話 	防災士会みやぎ防災士
	蔵王山噴火及び、水害等の対策、避難訓練について	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王山噴火による融雪型火山泥流や、水害が発生した場合の被害想定 上記の避難方法及び、下校等の判断 自主防災組織との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 噴火想定訓練時に、自主防災組織の方々も参加 融雪型火山泥流発生時のマニュアルに見直し 高校生に対し、支援者となる視点で講話 	町防災担当部局担当者
小学校 (2回)	地域連携及び、津波からの地域合同避難訓練について	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との除草作業を通じた避難場所の確認 避難完了までの目標時間の考え方 地域の協力者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所の除草作業を計画 幼小中合同避難訓練の実施による課題の検証 大谷地区防災便りにより、取組を地域に発信 	東北大学災害科学国際研究所准教授
中学校 (1回)	地域の災害特性である水害対策及び、ハザードマップ作成について	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップ作成に必要な視点やフィールドワークを行う上での留意点についての講話 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループのフィールドワークの計画作りに生かした フィールドワークに当たり、臨時の行政区長会議を開催予定 	東北大学災害科学国際研究所准教授
防災主任者会 (1回)	地域と連携した防災教育・防災体制について	<ul style="list-style-type: none"> 「学校防災と地域防災の融合」について講義 地域と連携した取組事例により、地域と連携して取り組む効果を助言 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の防災主任が参加したため、各学校に持ち帰り、地域と連携した防災教育等に役立てる 	東北大学災害科学国際研究所教授

「みやぎ高校生サイクルサミット2021」が開催されます

県内の高校生が、交通事故防止と交通ルール・マナーの向上を図るため、高校生が主体的に取り組んでいる課題解決の活動について情報を共有し、その効果的な実践と今後の課題について討議します。

日時 令和3年8月20日（金） 14時00分から15時50分まで

開催形式 Zoomによるオンライン形式

参加校 宮城県内参加校23校

内容

○実践事例発表

「交通事故防止と交通ルール・マナーの向上」及び「ヘルメット着用の促進に向けた取組」について

①宮城県富谷高等学校 ②岩手県立盛岡工業高等学校 ③高知県立須崎総合高等学校

○パネルディスカッション（意見交換）

テーマ「高校生が主体的に取り組む交通事故防止とヘルメットの着用について」



みやぎ高校生サイクルサミット2021
ロゴ作成：宮城県富谷高等学校